

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード	5-4-1	5-4-3	事業名	新たな秋のイベント事業			
担当	観光文化局観光部観光企画課 山口 211-2376						
全体計画							
事業内容	札幌の観光におけるさらなる魅力づくりを目指し、大型のイベントが少ない秋の集客増を図るため、大通公園において新たな集客イベントを実施する。 当イベントは、「食」をツールとして北海道・札幌の情報発信を行う。また、大人から子どもまでが楽しめる場の提供として、歌や踊りなどを交えた参加型事業などを検討し、新たな賑わいを創出していく。 事業内容については、市民、関連団体、関連業種等から各種意見を聴取したものを基に素案を作成し、準備委員会組織や実行委員会を設立し、観光関連企業を含む多くの議論を重ね事業内容を検討していく。また、将来的な展開として、事業規模を拡大し、狸小路を含めた大通周辺商店街の協力を得ながら都心の賑わいを創出し、創成川等まで拡がりのある事業展開を目標とする。			<年度別の事業内容>			
				19年度……事業企画案策定 20年度……さっぽろオータムフェスト2008実施 21・22年度……21・22年度までについては、大通公園において、事業の充実及び拡大を目指す。			
事業内容・量・場所・規模・件数等	平成19年度事業内容(決算)			平成20年度事業内容(予算)			
	<p>当事業の平成20年度実施に向け、事業企画案を策定した。策定にあたり、市民を始め、学生団体や観光関連団体などと懇談会を実施し、市民意見や民間のノウハウを反映させたものとした。また、平成19年11月には、市内観光関連の各団体を中心とした100名規模のシンポジウムを開催し、策定した企画案を基に更なる意見交換を行い、企画の精度を向上させた。</p> <p>イベント実施を計画するにあたり、概要のPRやスポンサーの確保のため、セールスツールとなる概要カタログを制作した。</p> <p>平成19年10月には、当事業実施のための準備組織として「(仮称)さっぽろ秋まつり」準備委員会を立ち上げ、その組織をベースに平成20年3月には「さっぽろオータムフェスト」実行委員会を設置した。</p> <p>「さっぽろ秋まつりシンポジウム」開催負担金 1,300,000円 意見聴取の取組の一環として、観光関連事業者とのシンポジウムを開催した。新規イベントの検討をする中で、市内観光業界トップ出席による意見交換や、市長及び市幹部によるトップセールスの場として、協賛・スポンサーについて、個別に企業トップと会談し、協力要請を行う場とした。</p> <p>「新たな秋のイベント事業」企画書制作業務 1,155,000円 協賛を依頼する企業や実行委員会への参加を依頼する企業、協力を依頼する団体等への説明(セールス)を目的とした企画書の作成。</p>			<p>(事業概要)</p> <p>名称 さっぽろオータムフェスト2008 会場 大通公園5丁目～8丁目 日程 平成20年9月19日(金)～10月5日(日) 内容 「北海道・札幌の食」を提供する場として、大通公園西5丁目から8丁目にかけて、丁目ごとに特色のあるイベントを展開する。</p> <p>(実行委員会事業費)</p> <p>【収入】 さっぽろ秋まつり運営負担金(札幌市)……20,000,000円 その他協賛収入等(協賛企業等)……60,000,000円</p> <p>【支出】 実行委員会事務的経費……55,500,000円 各会場運営経費……24,500,000円</p>			
達成目標の状況							
項目		18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (予定)	21年度末 (予定)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)
観客数		-	-	60万人	70万人	80万人	80万人
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>市民との連携、市民参加 企業等との連携・協働 企画立案段階から、市民や学生及び観光関連団体である、旅客会社や旅行代理店、ホテル業界などとの懇談を実施し、当事業の概要の核となる、多くの意見聴取を行ってきた。</p> <p>[資金協力]各会場の管理運営を民間企業へ委託することにより、会場運営にあたり、民間事業者のノウハウを活かした事業展開が期待できる。また、運営費確保のためのスポンサー獲得など、運営経費確保のため協力を得ている。将来的に、本事業の拡大発展により、更なる事業内容の充実が図られることが期待できる。</p> <p>[人材協力]民間企業が管理運営にあたることにより、民間ノウハウを活用した優れた人材や技術が、活かされることが期待できる。</p> <p>[情報協力]観光関連団体である旅客会社や旅行代理店などの協力により、企画段階からの多くの意見、提案をいただいている。</p> <p>市民・企業等が参加しやすい環境づくり</p>							

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2) (単位:千円)

計画体系コード	5-4-1	5-4-3		事業名	新たな秋のイベント事業	
評価(成果)				課題		
19年度については、20年度実施に向け、事業の計画、策定期間であったことから、旅客会社や旅行会社などの観光関連団体をはじめ、学生、市民などと懇談会を実施し、多くの意見交換を行った。そのことにより、当事業に対しての、意見要望を取り入れた企画案を制作することができ、また、将来的に事業展開していく上で、今後の協力が期待できる。				新規の事業であることから、イベントの知名度が低く、告知・宣伝の展開を大量に行う必要があり、広告費用が高額となる。また、初年度である20年度の開催では、実績がないことから、道外からの観光客の入込みや出展者の確保、スポンサーの確保が困難であり、事業費の確保も課題となる。		
今後の事業の予定・方向						
22年度までは、大通公園のみの開催とし、内容の充実を図るものの、23年度以降は、新たに供用が開始される「創成川広場」をはじめとした、都心部全体を活用したにぎわいへと事業の拡大を行い、更なる地域経済の活性化を図る。						
事業費の推移						
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計
計画	事業費	2,500	43,500	49,000	54,000	149,000
	財源内訳					
	国・道支出金	0	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0	0
	その他	0	30,000	35,000	40,000	105,000
予算	事業費	2,500	20,000	-	-	22,500
	財源内訳					
	国・道支出金	0	0			0
	市債	0	0			0
	その他	0	0			0
実績	事業費	2,455	-	-	-	2,455
	財源内訳					
	国・道支出金	0				0
	市債	0				0
	その他	0				0
事業費の進捗率		(19年度実績事業費 + 20年度予算事業費) / (計画事業費)				15.1%
計画との差異(予算・事業内容・規模・時期等)						
(全体) 計画では直営方式を想定して事業費を見込んでいたが、実際の事業実施にあたっては、実行委員会方式を採用したことによりその他協賛収入等は計上しなくなった。このため計画事業費と予算事業費に差異が生じている。ただし、これは事業の実施方法に変更があっただけであり、実施内容には変更はない。						
[19年度]						
[20年度]						